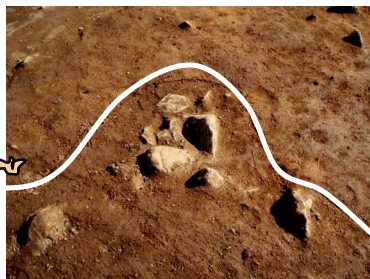


女夫石遺跡発掘調査速報

No.30

今回は平安時代の竪穴住居跡を紹介します。といっても、まだ掘り上げていません。どーやって竪穴住居跡があると分かるの？と疑問をお持ちの方も多いのではないのでしょうか。No.15でもちょっと紹介しましたが、そんな素朴な疑問に答えたいと思います。頭の中のモヤモヤがスッキリすると思います。

四角のコーナーが出っ張っていて石があって、しかも焼けた土が目立ちます。これが調査前のカマドです。カマドを隅に作るのは平安時代の終わりの頃になることが分かっています。



沢リ：平安時代の竪穴住居跡がまた確認されたいよ。しかも2軒重なっているんだってさ！

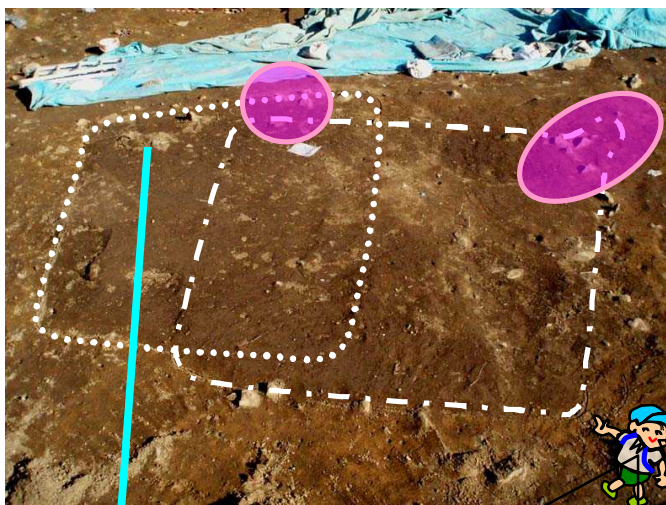
マキ：何で竪穴住居跡と分かったんだろうね？しかも掘る前なのに時代まで分かっちゃうなんて不思議だね？

沢リ：周りの地面の色は黄色いのに、黒色の範囲が四角く重なっているのが分かったからだってさ。しかも、小さな平安時代の土器の破片があったり、カマドがあるから平安時代って分かったんだってさ。

マキ：重なっているってことは、平安時代の中でも時間差があるってことだよ。どっちが新しいのかな？

沢リ：よく見ると、カマドの位置が違うみたいだよ。右の方は竪穴住居の四角のコーナーにあるけど、左の方はほぼ中央にあるよ。カマドの位置で時期が違って、コーナーにある方が新しいってことが、いろいろな遺跡の調査で分かっているらしいよ。

マキ：どんな遺物が出てくるか楽しみだね！（つっ）

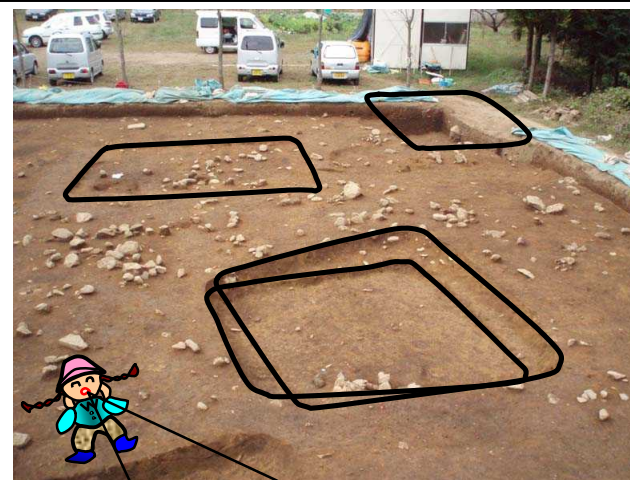


写真だとちょっと分かりにくいけど、二つの四角の内側が周りよりも黒いのが分かると思います。竪穴住居跡以外のお墓や貯蔵穴や柱穴などもこのように土の色の違いから見つけていきます。

女夫石遺跡では平安時代の遺構の土は分かりやすいのですが、縄文時代の遺構の土はとても分かりにくい。遺跡の時代や場所によって土目が違うので、慣れるまで大変なのです。

四角が二つ重なっているけど、右側の方が新しく作られた竪穴住居です。カマドの位置でそのことは分かります。

この四角を掘り上げると右の写真のようになります。さて、一体どんな平安時代の道具がでてくるのか楽しみです！



今までに掘り上げた平安時代の竪穴住居跡です。下の写真のような家があったんだよね！



左の竪穴住居跡からは大きい甕の肩の部分が発見されています。カマドの位置は隅ではなくて西壁の中央付近にあります。今まで調査した竪穴住居とほぼ同じ時期と考えられます。

